

事業報告

令和4（2022）年度



社会福祉法人 福島いのちの電話

いのちの電話とは

☆ 様々な問題を抱えながら孤独の中で、相談する人もなく不安な生活をし、精神的危機にある人たちが多数います。このような人たちが自殺の危機に追い込まれることがあります。

「死ぬほどつらい、誰かに聴いてほしい」と。

☆ ひとり悩み苦しんでいる人たちが、私たちのまわりには数多くいます。「いのちの電話」は、このような人たちに電話を通じて心を通わせ、よき隣人として相談相手となって励まし合うボランティア活動です。

☆ 「いのちの電話」は1953年ロンドンで始められ、現在では世界の主な都市に設立されています。日本では1971年に東京に開設され、現在は全国に50のセンターが設置されています。6,500人以上のボランティア相談員が年間約70数万件の相談を受けています。

☆ 「いのちの電話」は、特定の宗教や思想・信条などに左右されず一人ひとりのいのちを大切にして、悩んでいる孤独な人たちのよき隣人として、また相談相手として、共に生きる輪を広げていく運動です。

☆ 相談は、専門家による約2年間の研修を受け、認定されたボランティア相談員が担当しています。相談の秘密は厳守いたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 福島いのちの電話概況	2
3. 「福島いのちの電話」が受けた相談について	3
4. 令和4(2022)年度事業報告	9
5. 令和4(2022)年度資金収支計算書・貸借対照表	13
6. 令和5(2023)年度事業計画・資金収支予算書	15
7. 組織図	18
8. 役員名簿	18
9. 令和4年度ご支援下さった方々	19
10. 寄付金等でご支援下さった方々	26
11. 各種団体等からの補助金・助成金	30

はじめに

皆様には、日頃より福島いのちの電話の活動への深いご理解のもと、温かいご支援を頂戴しておりますこと、心より御礼申し上げます。お蔭様をもちまして、令和4年度も福島いのちの電話は365日無休の〈通常電話相談〉のほか、毎月10日の〈24時間自殺予防フリーダイヤル〉、そして「メール相談」及び〈ふくしま寄り添い「予約制」フリーダイヤル〉など、ICTを活用した相談事業を恙なく実施することができました。これも偏に、会員をはじめ多くの皆様方のご支援の賜であり、改めて感謝申し上げます。

さて、令和4年における全国の上自死死者数は21,881人で、令和3年より874人もの増加となりました。男女別では、12年連続前年を下回っていた男性が807人も増え、さらに女性は3年連続で前年を上回り、67人もの増加となっています。因みに、速報値によれば令和5年5月までの全体では、女性が210人も減少し、前年同時期を129人も下回っていますが、男性は81人もの増加となっており、自殺者の急激な増加が甚だ懸念されるところです。

翻って、福島県状況をみると令和4年は令和3年より21人もの増加で、4年ぶりに380人台となりましたが、速報値によりますと令和5年5月までに前年同期を29人も上回っており、正に危機的状況にあると言っても決して過言ではありません。

また、平成28年から増加傾向にある児童生徒の上自死は、令和4年には514人という過去最多を記録する事態となるなど、所謂「Z世代」の上自死対策が喫緊の課題と真摯に受け止めなければならないことから、福島いのち電話といたしましては、児童生徒の長期間の休み明け、取り分け〈9月1日問題〉に対処できるよう、令和4年度事業としてSNS相談の構築とオペレーターの研修を行ったところではあります。

さて、コロナ禍の3年間は、いのちの電話と自殺死者数は「正の相関関係」にあることをデータとして如実に物語っていることが明らかになりました。これは、①自殺者の多い年代といのちの電話を最も利用している年代が同じであること、②令和2・3年の自殺死者数は女性が突出しているが、同じようにいのちの電話の利用者も女性が突出したこと、③自殺の動機では心の健康問題が最も多く、いのちの電話の相談内容も心の健康問題が多くを占めていることなどから、これを理解することができます。

いずれにしても、人の命は何物にも代えがたいものであり、3年前の新型コロナウイルスの蔓延によって10年連続で前の年を下回っていた自殺死者数が、一転して増加に転じた現実を目の当たりにいたしますと、自殺予防をミッションとするいのちの電話の存在の確かさを改めて感じさせられた年であったと考えております。

ここに、改めて皆様のご厚情に対し心より感謝を込め、令和4年度の事業活動等のご報告を申し上げます。

令和5年7月
社会福祉法人 福島いのちの電話
理事長 丹羽真一

福島いのちの電話概況

- 設立：平成9（1997）年9月1日
社会福祉法人認可：平成15（2003）年8月25日
- 組織：評議員8名、理事8名、監事2名、特別顧問2名、
顧問8名、会員1,651名
- 電話相談員数：令和5年4月1日現在：135名（実働92名）
電話相談件数：（令和3年4月～令和4年3月）：9,335件
電話相談時間：【通常電話】：毎日10：00～22：00
毎月第3土曜日10：00～翌日10：00まで24時間
【日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」】
毎月10日 8：00～翌日8：00まで24時間
【ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル】
毎日 10：00～22：00（但し、3日前までに予約）
【日本いのちの電話連盟「全国ナビダイヤル」】
毎日 10：00～22：00
- 相談受付回線数：2回線
- メール相談：ホームページから相談フォームへ。原則、5日以内に返信。
- 相談員養成：相談員養成研修第1課程・第2課程・第3課程（インターン研修）
- 継続研修：全相談員対象、全体研修（年2回）、グループ研修（年10回）、スーパーバイザーによる個別指導（年1回）
- 運営：年間予算約17,000千円、財源は主として会員等の会費、寄付金、県の補助金及び公的団体の助成金
- 全国組織：一般社団法人日本いのちの電話連盟
加盟50センター（令和5年4月現在）

『福島いのちの電話』が受けた相談について

平成9年9月1日の開局以来、令和5年3月31日までに福島いのちの電話が受けた電話相談は350,658件で、1日当たりになると37件ほどになります。しかし、令和2年、3年、4年度は新型コロナウイルスの蔓延による相談員周囲の事情や自身の体調不安などから、相談電話の担当が大きく制約され、ここ3年間、取り分け令和4年度は、最多であった平成25年度（18,194件＝50件／日）の約半分ほどの9,335件（26件／日）の対応となってしまいました。

因みに、この間における電話相談は、極めて特徴的であったことがデータとして現れています。福島いのちの電話への電話相談は、開局当初から男性の割合が絶対的に高く、平成29年度にあっては男性59%、女性41%という状況でした。ところが、コロナ禍によって一変した世相を反映したのか、令和3年は男性44%、女性56%と逆転し、令和4年度も男性45%、女性55%と女性からの電話相談が、圧倒的に多くなっています。これは、自殺死者数の動向が、令和2年、3年と男性は前の年より減少しているのに対し、女性は前の年より大幅に増加したと軌を一にしたもの、つまり相関関係にあると考えられるところです。

千年に一度とも評される東日本大震災・原発事故から12年を経過したものの、令和5年3月時点での県外避難者数21,101人という数値からして、今なお苦悩と試練の中に置かれている方々が沢山いることを現実として裏付けています。こうした方々に寄り添い、穏やかな日常を一日でも早く取り戻せるよう福島いのちの電話では、電話での相談が確実に対応できる＜予約制＞フリーダイヤルも開設しました。さらに、ICT時代に即応したメール相談やSNS相談にも取り組み、相談ツールの拡充を図るとともにゲートキーパー養成講習を行うなど、「誰も自殺に追い込まれない社会を目指して」活動の充実に努めております。

○相談件数の推移

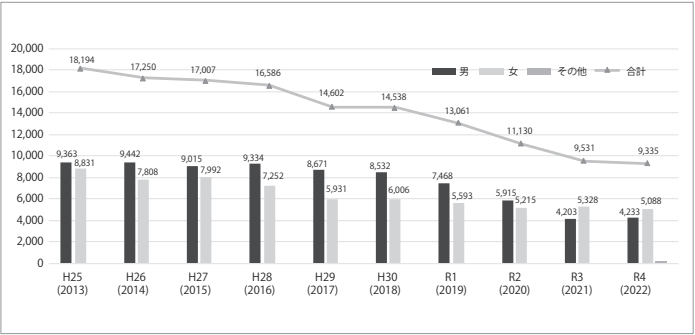
この1年間に受けた電話相談件数は9,335件で、昨年度に対し196件もの減少となっていますが、実は、電話相談の需要が減少したのではなく、令和4年度1年間の2／3近くを新型コロナウイルス感染の第7波（7／1～9／30）、8波（10／12～2／28）が占めたことから、外出自粛などにより相談員がスムーズに電話相談を担当できなくなったこと、さらに相談員の減少なども重なり、2回線の電話を全て受けられなかった結果の数値ということになります。

なお、男女別内訳をみますと、男性は4,233件で全体の45%、女性は5,088件で、依然として全体の半数を超える55%を占めていま

す。これは令和3年度と同じような傾向であり、電話相談は「3密」を回避した相談ツールであることやコロナ禍の不安・ストレスは男性以上に女性が強く感じていることの現れであると考えられます。

過去10年間の年別相談件数の推移

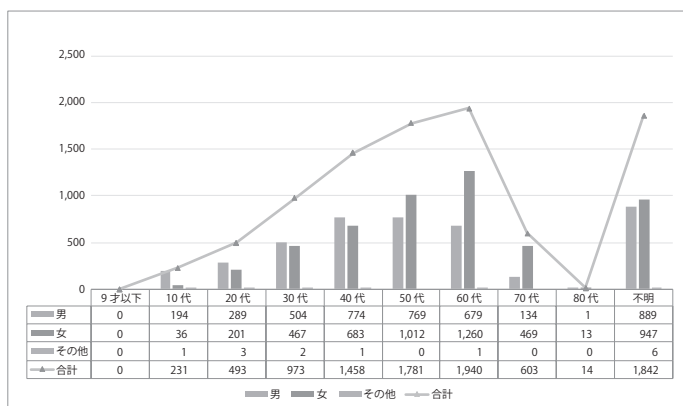
	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R 1 年 (2019)	R 2 年 (2020)	R 3 年 (2021)	R 4 年 (2022)
男	9,363	9,442	9,015	9,334	8,671	8,532	7,468	5,915	4,203	4,233
女	8,831	7,808	7,992	7,252	5,931	6,006	5,593	5,215	5,328	5,088
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
合計	18,194	17,250	17,007	16,586	14,602	14,538	13,061	11,130	9,531	9,335



○相談の年代別状況

相談件数を年代別にみると、全体では60代が最も多く1,940人で、不明を除く全体の25.9%、次いで50代の1,781人で全体の23.8%、40代が1,458人で全体の19.58%となっており、この3世代で全体の7割を占めています。なお、10代、20代の若い世代の電話相談の状況をみると、男性は不明を除く全体の11.4%、女性にあっては不明を除く全体の4.7%と極端に少なくなっています。

因みに、年齢階級別自殺者数（令和4年版『自殺対策白書』）は、最も多いのは50代で3,618人、次いで40代の3,575人、そして70代の3,009人となっており、年代別の電話相談件数と類似した傾向が見られます。



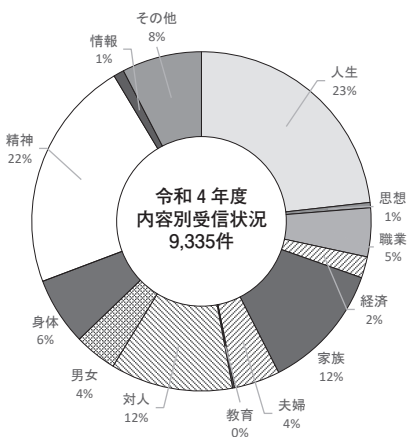
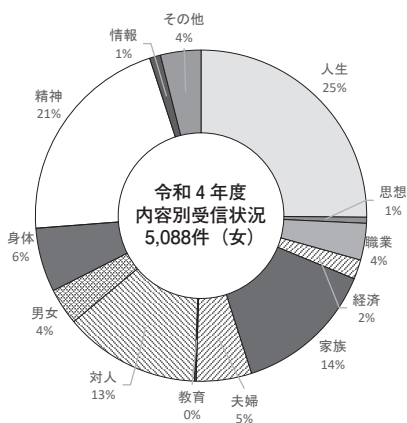
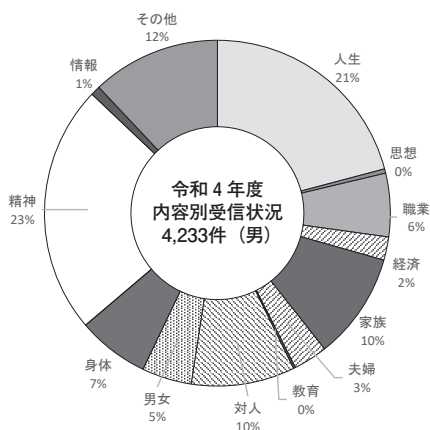
○相談の内容別状況

日本いのちの電話連盟の相談内容分類に基づく分類では、「その他」を除いた割合でみると、「人生」25%、「精神」24%、「家族」13%の順となり、この3つで、は相談内容の6割を超える状況にあります。

なお、「人生」の中の小項目として、＜孤独＞＜死別（自殺による）＞＜コロナ＞＜事故＞などがあり、孤独やコロナに関する相談が多くを占めている。また「精神」の中の小項目には、＜うつ＞＜統合失調症＞＜自傷行為＞＜性＞などがあり、うつ病に関する相談も多くみられます。さらに「家族」の中の小項目となる＜家庭内暴力＞＜介護＞＜子育て＞などの相談が大部分を占めています。

令和4年度電話相談内容別受信状況

	人生	思想・人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	884	17	251	92	423	135	8	410	197	284	986	38	508	4,233
女	1,281	28	183	97	706	276	8	677	178	317	1,081	55	201	5,088
その他	2	1	0	0	0	0	0	2	5	2	0	0	2	14
合計	2,167	46	434	189	1,129	411	16	1,089	380	603	2,067	93	711	9,335

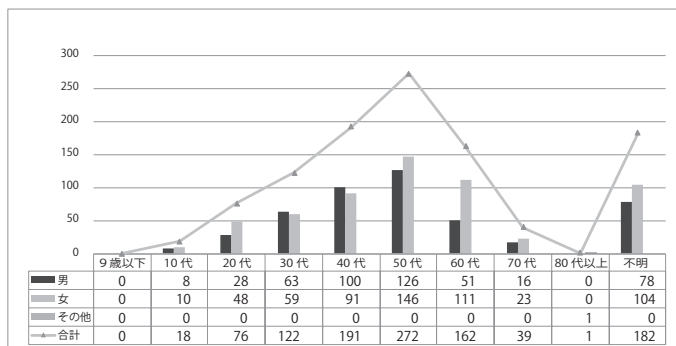


○自殺を訴えた相談件数

電話相談の中では、「生きているのが辛い」「消えてしまいたい」「生きている意味が分からない」など、自殺傾向の強い言葉を聴くことも少なくありません。こうした自殺傾向のある相談件数は1,063件で、全体の11.4%となっています。

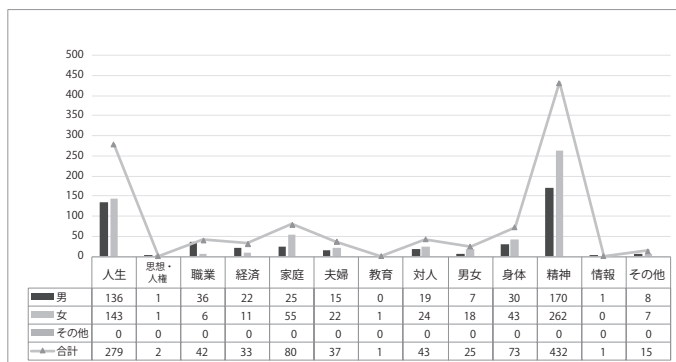
○自殺傾向の年代別の状況

自殺傾向の年代別の電話は、不明を除いた全体でみると50代が30.8%、次いで40代が21.7%、そして60代の18.4%と続き、この3つの年代で全体の7割を超えています。中でも特徴的なのは、比較的相談件数の少ない20代の女性の自殺傾向の電話が、相談件数201件のうち48件（23.9%）になっていることであり、令和3年度も264件のうち70件（26.5%）と極めて高い傾向にあることです。



○自殺傾向の内容別の状況

自殺傾向の電話を内容別にみると、「精神」が全体の40.6%、「人生」が26.2%となっており、この2つで全体の7割近く達しています。中でも、「精神」にあっては<うつ>、「人生」にあっては<孤独>が大きな比重を占めています。



○ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル

この電話の特長は、3 日前までに予約設定をすれば、予約設定時刻に「こちらから電話を掛ける」、つまりアウトリーチ的対応となることです。

＜予約制＞F D 受信状況

(2023. 3.31現在)

令和4年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計 (件)
着信件数	19	36	28	20	21	12	13	20	10	21	32	21	253
予約件数	6	6	5	1	7	5	4	3	2	7	11	8	65

○福島いのちの電話「メール相談」

この相談の特長は、相談者に対し5 日以内に返信文を送信することと、＜予約制＞フリーダイヤルとジョイントさせていますので、リアルタイムでの相談も可能になることです。

令和4年度メール相談受信件数

(2023.3.31現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計 (件)
受信件数	3	6	6	32	20	17	20	16	16	10	14	32	192
返信件数	3	5	5	20	13	13	8	14	13	5	5	11	115

* 月の受信件数と返信件数の乖離は、①相談内容の確認、②予約制F Dの連絡、②返信が翌月。

令和 4 (2022) 年度事業報告

I 主要事業の活動状況

1. 電話相談

(1) 通常電話相談 (024-536-4343)^{しみじみ}

・ 受信時間 (毎日) 10:00~22:00

・ 毎月第3土曜日 10:00~翌日10:00までの24時間

(2) 日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」に参加
(0120-783-556)^{なやみ こころ}

・ 毎月10日~11日 8:00~翌日8:00までの24時間

(3) ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル (0120-556-189)^{こころ いちばんはやく}

・ 毎日10:00~22:00 (但し、3日前までに予約。予約時間に、
こちらから電話を掛ける)

(4) いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」 (0570-783-556)^{なやみ こころ}

・ 毎日10:00~22:00

* 電話受信総件数 (令和4年4月1日~令和5年3月31日)

○ 総件数: 9,335件 (前年 9,531件)

＜うち自殺傾向の件数: 1,063件 (前年1,117件)>

＜内訳> 福島センター 5,468件

(うち自殺予防フリーダイヤル 454件)

郡山分室 3,741件

いわきサテライト (令和4年7月開始) 126件

○ ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル 65件

(アクセス件数253件)

2. メール相談

・ 相談メール受信数 192件 返信文作成数 115件

相談者実数 40人 (男18人、女20人、その他2人)

3. 相談員養成研修及び継続研修等

(1) 第24期生養成研修 第1・2課程 4名

(2) 第23期生養成研修 第3課程 6名

(3) 相談員継続研修 (相談員全員対象)

ア. グループ研修 (継続研修): グループを構成し1回/月
実施 (全体研修の月は無)

イ. 全体研修：2 回開催

① 6 / 26 (日) 「無償ボランティアの意義と役割」

講師：佐藤宏平山形大学教授

② 11 / 6 (日) 「発達障害、精神疾患自立支援」

講師：丹羽真一福島 L L 理事長

ウ. 個人スーパービジョン：全相談員 1 回 / 年

4. 相談員の認定

(1) 継続委嘱相談員数 95 名 (令和 5 年 4 月 1 日現在)

(2) 新規認定相談員数 (第 23 期生) 6 名

(3) 実働相談員数 92 名 (令和 5 年 4 月 1 日現在)

5. 公開講座の開催

・ 春季公開講座 (相談員募集説明会)

回	月 日	場 所	講 師	参加者
第 1 回	5 月 7 日 (土)	コラッセふくしま	県立医科大学 及川 祐一	27 人
第 2 回	5 月 14 日 (土)	郡山市労福会館	文教大学教授 布柴 靖枝	26 人
第 3 回	5 月 21 日 (土)	コラッセふくしま	北星学園大学教授 田辺 等	27 人
第 4 回	5 月 28 日 (土)	郡山市労福会館	針生ヶ丘病院 大森 洋亮	23 人

6. 財政基盤の確立

(1) 会員寄附金 (会費) の確保

① 会員寄附金 (会費) 収入 6,739,028 円

(前年度実績額 7,440,015 円)

個人会員 1,750,000 円 (同 2,912,968 円)

法人会員 2,045,233 円 (同 1,870,000 円)

賛助会員 2,943,795 円 (同 2,657,047 円)

(2) 一般寄附金収入 1,701,383 円 (前年度実績額 1,730,242 円)

(3) 新規会員の確保

令和 4 年度新規会員数 32 名

令和 4 年度末会員数 1,651 名 (令和 3 年度末 1,619 名)

* 令和 4 年度会費納入会員数 829 名 (50%)

(令和 3 年度 = 35%)

(4) 補助金・助成金等の実績

① 福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金 4,200 千円

② 福島県新型コロナウイルス対策事業民間団体補助金

3,400 千円

7. 広報活動の推進

- (1) 広報紙秋号（60号）及び春号（61号）の発行
- (2) 相談員募集広報の展開
 - ① 公開講座広報と併せて実施（民報、民友新聞等）
 - ② <予約制> F D ・ メール相談に併せ実施（民報、民友、リビング新聞、ラジオ）
- (3) ホームページの充実（適時適切な情報を頻繁に更新）
- (4) ツイッターの内容更新

8. 支部活動の推進

- ・ 支部総会等の開催 <コロナ禍により書面総会>

9. 電話相談に関する調査研究

- ・ 『多数回通話者の理解と対応』（電話相談分析小冊子）の作成

10. ゲートキーパー養成事業

- ・ 令和4年度ゲートキーパー養成事業 受講者総数657名

- (1) ゲートキーパー講習プライマリーコース 80名
 - ① 三春町（40名）、② 福島東稜高校看護科（40名）
- (2) プレ・ゲートキーパー講習 577名
 - ① 福島東高校（50名）、② 本宮市教育委員会（40名）、
 - ③ 福島市（120名）、④ 田村市「大越」（20名）、「都路」（20名）、
 - ⑤ 須賀川創英館高校2年生（200名）、⑥ 本宮市（10名）、
 - ⑦ 伊達市（47名）、⑧ 二本松市（70名）

II 役員会、各委員会等の活動状況

1. 理事会、評議員会

回	期 日	理 事 会	評 議 員 会
第1回	令和4年 6月11日(土)	① 令和3年度事業報告・決算について ② 評議員会の招集について	
	令和4年 6月28日(木)		・ 令和3年度事業報告・決算について
第2回	令和5年 3月12日(日)	① 令和5年度事業計画-予算について ② 評議員選任・解任委員選任について ③ 新たな評議員候補者選任について ④ 評議員会の招集について	
	令和5年 3月30日(木)		・ 令和5年度事業計画-予算について

2. 各委員会等の活動及び各種会議の開催

(1) 運営委員会

おおむね隔月ごとに、年間6回開催した。

(2) 各委員会

総務財務委員会、広報委員会、研修委員会、相談委員会、調査研究委員会、公開講座実行委員会を定期的に開催した。

(3) 認定会議

令和4年6月11日 第24期相談員養成研修受講生審査5名

令和5年3月11日 第23期生6名認定、第24期生3名仮認定、更新認定95名

Ⅲ その他事業の実施状況

1. いわきサテライトの開設

いわき市に「サテライトブース」を新たに開設し、通常電話(4343)の転送を行い、相談電話対応が可能となる施設を整備した。なお、いわき方部には、6名の相談が在籍している。

2. 福島支援プログラム（日本いのちの電話連盟事業）自殺防止対策事業 ＜事業費4,000千円＞

1. 「ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル」

アクセス件数253件、通話完了65件

2. 福島方式「メール相談」相談受信件数192件、返信文作成件数115件

3. ライフイベント・ストレスに対する「レジリエンス五・七・五」(小冊子)作成・配布

4. 「SNS相談」の仕組み構築

5. ゲートキーパー連携センターの運営（ニュースレター＜季刊＞の発行）

令和 4 (2022) 年度資金収支計算書

(2022年 4 月 1 日～ 2023年 3 月31日)

〈収入の部〉

(単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
会 員 寄 附 金	6,739,028	個人維持会員、団体維持会員、賛助会員
一 般 寄 附 金	1,701,383	県民共済、篤志家等からの寄附金
福 島 県 補 助 金	7,600,000	福島県自殺対策緊急基金、新型コロナ対策補助金
共 同 募 金 配 分 金	300,000	共同募金配分金
受 講 生 負 担 金	541,343	23期6名、24期3名、特研7名、支援プログラム
受取利息配当金	80	預金利息
合 計	16,881,834	

〈支出の部〉

(単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
事 業 費	8,022,155	相談員養成・継続研修、ゲートキーパー講習、メール相談等
事 務 費	3,894,581	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸費等
人 件 費	4,031,997	非常勤5名、事務補助パート2名
当期資金収支差	933,101	
合 計	16,881,834	

*連盟事業〈福島支援プログラム〉＝4,375,000円

＜予約制＞F D、メール相談、ライフイベント・ストレス『レジリエンス五・七・五』作成、SNS相談仕組み構築、ゲートキーパー連携センター運営

令和 4 (2022) 年度貸借対照表

(令和 5 年 3 月31日現在)

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	5,157,596	流 動 負 債	3,097,257
現 金 預 金	4,108,644	未 払 費 用	3,097,257
未 収 金	86,000	預 り 金	
未収補助金	0	固 定 負 債	0
立 替 金	808,516	負債の部合計	3,097,257
前 払 費 用	154,436	純資産の部	
固 定 資 産	12,460,516	基 本 金	10,000,000
基 本 財 産	10,000,000	国庫補助金等特別積立金	1,895,260
定 期 預 金	10,000,000	その他の積立金	0
その他の固定資産	2,460,516	次期繰越活動増減差額	2,625,595
建物付属設備	2,054,417	(うち当期活動増減差額)	742,501
器具及び備品	92,553		
権 利	313,545		
ソフトウェア	1	純資産の部合計	14,520,855
資産の部合計	17,618,112	負債及び純資産の部合計	17,618,112

監 査 報 告 書

令和5年5月31日

社会福祉法人福島いのちの電話

理事長 丹 羽 真 一 殿

監 事 大出 隆秀 

監 事 丹治 正男 

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属説明書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

令和 5 (2023) 年度事業計画

1. 事業計画策定に当たっての基本方針

警察庁統計によると、2022年における全国の自殺死者数は21,881人で昨年より874人もの増加となっている。内容的には、12年連続前年を下回る減少傾向にあった男性が、2022年には604人もの増加となり、さらに女性は昨年より67人も増えて、3年連続前の年を上回る結果となった。このような状況は、コロナ禍による女性の自殺者数増加というこれまでの経過に加え、景気動向と男性の自殺は負の相関関係にあることから、自殺の動向の今後が極めて懸念される。

また、2016年から増加傾向にある児童生徒の自殺にあっては、2022年においては514人という過去最多を記録する事態となっており、所謂「Z世代」の自殺対策が急務であることを真摯に受け止めなければならない。

翻って、福島県の状況をみると2022年は、380人と前年より21人もの増加となったことから、4年ぶりに380人台となり、自殺死亡率も20.7と20の大体に乗り、全国ワースト8位のままととなっている。

こうした状況を踏まえ「福島いのちの電話」における2023年度の活動方針は、「相談活動の充実・強化」、「相談環境の整備」、「広報活動の充実・強化」を図りつつ、取り分けいのちの電話のミッションである「自殺予防」を一層効果あらしめるため、「ゲートキーパー養成講習」、「メール相談」に加え、「SNS相談」を4期に分けてのトライアル事業として新たに実施するとともに、コロナ禍により3年間休止されていた全国相談員研修会を今年10月26日から28日までの3日間「ふくしま大会」として開催し、いのちの電話相談員のスキルアップとモチベーションの向上に努めることとする。

さらに、大震災から12年を経過したことによって顕在化しつつある<震災・原発事故の風化>に対峙するため、日本いのちの電話連盟事業<福島支援プログラム（①予約制フリーダイヤル、②「メール相談」、③「ストレス・レジリエンス五・七・五」の作成、④SNS相談の検討など）>を2023年度においても、引き続き取り組むものとする。

2. 事業計画の概要

(1) 相談活動の充実・強化

ア. 電話相談の実施（毎日、10：00から22：00。月1回毎週第3土曜日は24時間対応）

イ. 連盟事業「全国自殺予防フリーダイヤル」への参加（毎月10日、8：00から翌日8：00まで）

ウ. 「ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル」（毎日、10：00から22：00。但し、3日前までに予約設定）

エ. メール相談事業（メールでの相談は5日以内に返信文を送信する）

オ. 「SNS相談」トライアル事業（長期休暇<春休み、5月連休、夏休み、冬休み>明け

前後の5日間)

カ. 相談員養成研修

- ① 第24期生の養成(第2課程)
- ② 第25期生の養成(第1課程)

キ. 相談員研修の充実

① 相談員継続研修

- ・グループ研修(毎月1回、但し全体研修を実施する月は除く)
- ・個人スーパーヴィジョン(年1回)
- ・全体研修(春・秋の年2回)
- ② 第4期内部リーダー養成特別研修(後期)
- ③ 研修のあり方検討会フォローアップ事業
- ④ 外部の研修会等への参加
 - ・全国相談員研修会(郡山市「ふくしま大会」。2023年10月26日～28日)
 - ・全国自殺予防シンポジウム(大分市。2023年9月17日)
 - ・電話相談学会(未定)
 - ・自殺予防学会(大分市。2023年9月14日～17日)
 - ・全国研修担当者セミナー

(2) 組織体制の整備充実

ア. 運営委員会及び各委員会等の定例開催による委員会活動の活性化

イ. 支部活動の活性化、本部と支部の連携強化

ウ. 連盟事業「ゲートキーパー連携センター」との協同

(3) 財政基盤の強化

ア. 資金ボランティア会員の増強

イ. 公的助成充実への取り組み

(4) 相談環境の整備

ア. 相談員ケア体制の充実(ケアのためのSV、ケア会議の開催等)

イ. 相談電話の双方向録音によるスキルアップ

(5) 広報活動の強化

ア. 広報誌発行(年2回発行)

イ. 福島いのちの電話「案内パンフレット」改訂版の作成

ウ. ホームページの充実

エ. Twitterによる情報提供

オ. 相談員募集広報の強化(新聞、ラジオ広報等)

(6) 相談内容等の調査研究

ア. 相談員ケア体制のあり方に関する調査研究

イ. 第38回全国相談員研修会「ふくしま大会」報告書の作成

(7) 公開講座等の実施

・相談員養成の前提となる春季公開講座の開催<福島市(2回)、郡山市(2回)>

(8) ゲートキーパー養成講習の受託

① プライマリーコース<初心者対象、3セッション180分>

② ステップアップコース<対象=プライマリーコース受講修了者、3セッション180分>

③ プレ・ゲートキーパー講習<1セッション90分>

令和 5 (2023) 度資金収支予算書

(2023年 4 月 1 日～2024年 3 月31日)

＜収入の部＞

(単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
会 員 寄 附 金	7,000,000	維持会員(個人・団体)、賛助会員(個人・団体)
一 般 寄 附 金	1,500,000	
福 島 県 補 助 金	9,200,000	自殺対策4,200千円、コロナ対策4,000千円、大会支援1,000千円
共 同 募 金 会	300,000	共募300千円
養成研修負担金	440,000	養成研修20名
雑 収 入	40,000	バザー会
合 計	18,480,000	

＜支出の部＞

(単位：円)

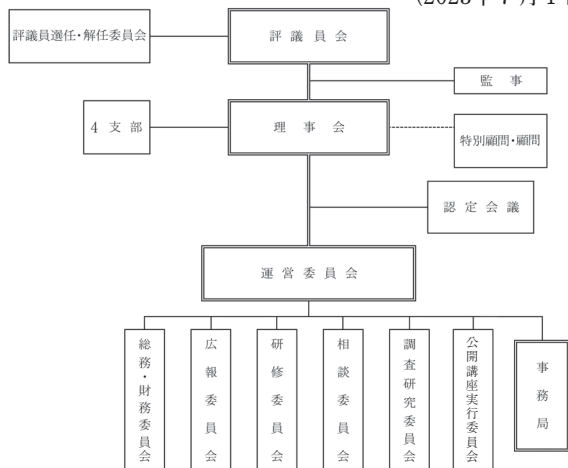
科 目	予 算 額	摘 要
事 業 費	8,490,000	相談員養成・継続研修、ゲートキーパー講習、メール・SNS相談等
事 務 費	5,049,000	賃借料、通信運搬費、会議費、事務諸費等
人 件 費	4,000,000	非常勤5名、事務補助2名
予 備 費	941,000	
合 計	18,480,000	

*連盟事業「福島支援プログラム」=6,814,000円

- ①寄り添い＜予約制＞FD、②メール相談、③SNS相談トライアル、④ライフイベント・ストレス『レジリエンス五・七・五』作成、⑤ゲートキーパー連携センター運営

社会福祉法人福島いのちの電話組織図

(2023年7月1日)



役員名簿（令和5年7月1日現在）

●特別顧問

遠藤 道雄 茂田 士郎

●顧問

遠藤 忠一 甚野源次郎 花田 昴 濱田千恵子
星野 仁彦 望木 昌彦 山川 彬 横山 光衛

★評議員会

石橋 真一 内山 清一 神戸 信行 紺野 学
齋藤 記子 佐藤 倫子 高野 武彦 村田 純子

☆理事長

丹羽 真一

☆副理事長

柳沼 純子

☆業務執行理事

三瓶 弘次

☆理事

遠藤 智子 今野 孝敏 古川 英雄 堀切 伸一
村上 敦浩

◎監事

大出 隆秀 丹治 正男

令和4年度ご支援下さった方々

福島いのちの電話の運営のために、次の方々にご支援いただきました。誠にありがとうございました。これからもご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。
(敬称略、順不同)

1. 個人維持会員

藍原 裕子	藍原 政信		
アイル薬局住吉店	赤津 雅美		青木 英子
秋元登志夫	阿久津文作	浅野桂太郎	穴澤 正行
阿部 智英	阿部 裕光	阿部裕美子	安部 泰男
阿部 倫子	有馬 博	安斎 征治	五十嵐節子
石井 浩	石井 幹子	石下 恭子	板垣 茂
伊藤 典和	伊藤美知子	井上 茂	上嶋 明彦
上杉 洋子	内山 清一	内山三津男	宇津木洋美
江河 佑	江田 清	遠藤 俊博	遠藤 道雄
大出 隆秀	太田 聖一	加藤 波子	金澤 博信
金子あき子	神山 悦子	亀岡 偉民	菅家八栄子
菅野 民江	菅野 建二	菅野 藤江	菅野 光枝
菅野 光代	菅野 美子	菊嶋 健一	菊田 則雄
木村 福一	黒江 律子	黒沢 秀子	玄永 牧子
小池アサ子	神戸 信行	古関 君子	小林 健夫
近藤 哲	齋藤 美佐	坂井 絹代	阪上 通明
佐藤 温史	佐藤 綾子	佐藤久美子	佐藤 慶吾
佐藤 貞子	佐藤 順子	佐藤真智子	佐藤百合子
佐藤 政隆	佐野 勝俊	三瓶千恵子	三瓶 弘次
志賀多恵子	嶋原ヤイ子	嶋原 弥	穴戸 宏行
穴戸 悠子	渋谷 順子	白岩 康夫	甚野源次郎
菅野 和子	鈴木 正吾	鈴木 忠一	鈴木 芳喜
関口 祐子	平 信二	高木恵美子	高萩八重子
高橋 年光	高宮 光敏	武田 正裕	唯木トシ子
田中 照子	玉木 仁彦	丹治千代子	丹治 正男
茶屋 明郎	束原 康文	冨塚美貴子	西山 江美
丹羽 真一	根本 克治	野口 尚一	芳賀 裕
羽田 房男	半澤 トシ	引地 知子	平岩 幸一
廣川美智子	廣澤 克子	藤原 正子	洞口 英子
堀切 伸一	本田 恵一	幕田 郁子	増井 寛治
まちの薬局扇町店	町野 紳		松本 久子

松本 道子	美田真理子	皆川 誠吉	皆川 照子
三宅 祐子	宮本しづえ	村越 栄子	毛利 靖子
望木 昌彦	森藤美津子	柳内 務	八島 恭子
安田 武吉	山崎誠一郎	遊佐 久男	湯澤 友子
陽田 正夫	吉澤萬里子	吉田 英策	吉田 和代
吉田キクエ	吉田 嘉子	吉成内科 吉成 毅	
渡辺 厚	渡部 啓子	渡辺 康平	渡辺 繁雄
渡部 純夫	渡邊 哲也	渡邊 文子	渡邊 又夫
渡邊 素子			

2. 団体維持会員

明るい社会づくり運動郡山地区協議会 会長代行 佐藤 政喜
 明るい社会づくり運動福島・伊達・二本松地区協議会
 石橋建設工業株式会社 代表取締役 石橋 英雄
 一般社団法人福島県自動車整備振興会
 一般社団法人福島県建設業協会
 一般財団法人太田綜合病院
 一般財団法人大原記念財団
 一般財団法人桜ヶ丘病院
 一般社団法人福島県精神科病院協会 会長 星野 修三
 一般財団法人福島県自動車会議所
 一般財団法人ふくしま市町村支援機構 理事長 遠藤 雄幸
 医療法人板倉病院 院長 海野 幸浩
 医療法人鎌田クリニック 理事長 板垣 茂
 医療法人杏泉堂本間内科 理事長 本間 一男
 医療法人済精会 長橋病院 理事長 本多 幸作
 医療法人優晟会 南中央眼科クリニック
 N O K株式会社福島事業場 NTT東日本福島支店
 株式会社環境分析研究所
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社民報アド 株式会社トヨネスト
 株式会社総合コンサルタンツ代表取締役 最上 論
 株式会社テレビユー福島 株式会社同仁社
 株式会社東邦銀行 株式会社日新土建
 株式会社ハッピーケア 株式会社ファミリーケア
 株式会社福島銀行 株式会社福島民報社
 株式会社ボーダレス総合計画事務所 代表取締役 鈴木 勇人
 株式会社マルト商事 代表取締役 安島 浩

株式会社山川印刷所	代表取締役	立花 志明
株式会社ラジオ福島		北関東空調工業株式会社
きらり健康生活協同組合		
公益社団法人福島県看護協会		
公益社団法人福島県トラック協会		
公益財団法人湯浅報恩会		寿泉堂綜合病院
合資会社共立社		佐藤工業株式会社
社会福祉法人育成会	理事長	高村トミ子
社会福祉法人厚慈会		社会福祉法人昌平賢
社会福祉法人なごみ		宗教法人安洞院
大蔵寺 拾井 一豊		
東北電力株式会社福島支店		東北労働金庫福島県本部
特定非営利活動法人 エルタ		日榮工業株式会社
針生ヶ丘病院		株式会社ひらい
ひろやまメンタルクリニック	廣山 祐治	
福島稲荷神社宮司 丹治 正博		福島県市長会
福島県信用保証協会		福島県図書教材協会
福島市仏教会		福島信用金庫
福島民友新聞株式会社		
福島ヤクルト販売株式会社		保原自動車学校
矢吹自動車教習所		有限会社タロサ
社会福祉法人緑風福祉会		

3. 賛助会員（個人）

秋元登志夫	安斎 孝意	安齋 睦男	市原 徳子
大石 邦子	大木 厚	大和田清司	栗林 正樹
窪 睦子	熊代 永	黒沢 秀子	桑名 俊光
健歩薬局 三好 正人		小池アサ子	小泉 伸介
古関 君子	佐々木慶子	佐藤 和子	佐藤 正美
佐藤 由美	三瓶 弘次	柴山 邦雄	田中 文博
玉木トヨ子	丹野 一男	永井 久雄	根本 正子
松本 純	森 綾子	森 啓子	安海 好昭
梁川 優子	吉田 英策	渡辺とくい	渡邊 又夫
亘理 正明	匿名希望者	2名	

4. 賛助会員（団体）

安達ライオンズクラブ 会長 服部 富男
 一般社団法人福島県医師会

一般財団法人竹田健康財団

医療法人社団石福会 四倉病院

医療法人西口クリニック婦人科 理事長 本多 静香

医療法人済精会 長橋病院 理事長 本多 幸作

医療法人敬仁会 なかのクリニック

磐城通運株式会社

株式会社環境分析研究所

株式会社菅家経営センター

株式会社ジー・アイ・ピー

株式会社原町自動車教習所

株式会社大丸工務店

株式会社トヨタレンタリース福島

株式会社松崎

株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀

康善寺

公立相馬総合病院

小林土木株式会社

コングレガシオン・ド・ノートルダム花園町修道院

真浄院住職 網代 智明

生活協同組合 コープあいづ

東亜自動車学校

東北労働金庫福島県本部

日本キリスト教会福島伝道所

日本基督教団福島教会

日本基督教団郡山教会

福島県町村会

堀江工業株式会社

山口薬品株式会社

有限会社みどり薬局

鎌秀院 竹内 文崇

5. 喜多方支部・個人維持会員

青山 榮子	穴澤 高子	阿部 静子	荒川 節子
荒川 裕子	五十嵐 聡	一ノ瀬知恵	岩田 綾子
上野 啓介	鶴川 晶子	梅宮 美喜	遠藤 貴子
遠藤 長吉	遠藤 次男	遠藤 英昭	遠藤 昌幸
遠藤美智子	大関さち子	大竹小百合	大塚 香子
大塚 里美	大塚 節子	大野 京子	大原 尚子
大森志津子	小椋 和洋	風間 俊恵	片桐ゆり子
唐橋 和美	川口 理香	杵渕テル子	日下 彩芳
草刈 牧子	小荒井 武	小林 弘子	小檜山チヨ子
小松 祐子	齋藤マサ子	齋藤 祐子	坂本真理子
相良 静雄	相良 由紀	佐々木恵津子	佐藤 文子
佐藤 美穂	佐藤 恵	佐野 圭一	志田 公司
鈴木 貴子	鈴木ちひろ	鈴木 敏憲	鈴木 優子
須田 栄晋	須田 恭広	須藤 茂樹	須藤 俊弘

清野 弥生	清野 洋一	関本 克聡	高久 俊秋
高橋 敏衛	高橋 美幸	田澤 節子	立川 貴之
田中 喜作	田中 幸悦	田中 詢	棚木 加奈
田部 芳子	東條 孝雄	東條千登勢	外島千鶴子
富山 雅子	豊子 光代	生江 恭子	西 浩美
二瓶 藤一	花見 博文	原 倫子	坂内 孝夫
平田 広美	広井トヨ子	藤川美和子	藤澤 廣子
古川 英雄	星 幸奈	柊川 恵	松尾 勝貴
松下 智明	松本 恵美	三橋 亜美	三橋 彦也
皆川 共子	武藤 顯夫	武藤喜代次	武藤 陽子
武藤 良太	村澤 憲一	室井麻富花	物江 昌子
矢部 薫	山内智恵子	山口 愛子	山口 史明
山崎三枝子	横澤 栄子	横山 憲一	吉川 昭
若狭 勝代	渡辺 慶子	渡部 敬二	渡邊 幸子
渡辺 俊明	渡部みい子	渡部 要子	

6. 喜多方支部・団体維持会員

会津喜多方商工会議所	会津よつば農業協同組合
一般社団法人喜多方医師会	喜多方グリーンホテル
喜多方市熱塩加納町民生児童委員協議会	
喜多方市岩月町民生児童委員協議会	
喜多方市上三宮町民生児童委員協議会	
喜多方市熊倉町民生児童委員協議会	
喜多方市慶徳町民生児童委員協議会	
喜多方市塩川町民生児童委員協議会	
喜多方市食生活改善推進員会	
喜多方市関柴町民生児童委員協議会	
喜多方市第一区民生児童委員協議会	
喜多方市第二区民生児童委員協議会	
喜多方市高郷町民生児童委員協議会	
喜多方市豊川町民生児童委員協議会	
喜多方市ボランティア連絡協議会	
喜多方市松山町民生児童委員協議会	
喜多方市民活動サポートネットワーク	
喜多方市役所 課長会	喜多方市役所 部長会
喜多方市山都町民生児童委員協議会	
国際ソロプチミスト喜多方	
明るい社会づくり運動喜多方地区協議会	

7. 喜多方支部・賛助会員

伊勢亀幸男 菊地 節子 喜多方市女性団体連絡協議会

8. 南相馬支部・個人維持会員

朝倉美智子	伊賀 淳	石垣 清子	石橋 三男
江尻 久子	円谷 仁子	太田 光秋	緒方 慎一
金澤 幸夫	甲田 政志	佐藤 一男	佐藤 清彦
島田まゆみ	高根 富三	中尾 誠利	番場三和子
平戸 隆子	湊 清一	村上 勇一	村田 純子
村田 秀人	門馬 孝子	渡部 喜照	

9. 南相馬支部・団体維持会員

一般社団法人原町青年会議所
医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
関場建設株式会社 代表取締役社長 関場 啓
東北建設株式会社
ニッソーレンタリース株式会社 代表取締役 日下 匡美
日本オートマチックマシン株式会社 原町事業
原町建設機械株式会社 原町赤十字奉仕団
ほりメンタルクリニック 堀 有伸
株式会社原町日通自動車修理工場
株式会社北洋舎クリーニング
特定非営利活動法人ほっと悠 丸三製紙株式会社

10. 南相馬支部・賛助会員

株式会社原町中央自動車教習所 萩原久美子
南相馬中央医院

11. いわき支部・個人維持会員

有馬 恵子	内田 一久	岡本 恒夫	
高蔵寺 木村 照典		小堀新一郎	清水 敏男
鈴木修一郎	立花 スエ	中野 真理	根本 克治
馬目 重信	水原美千枝	藁谷 和子	

12. いわき支部・団体維持会員

NPO法人子どもの家 阿邊みどり
オレンジ薬局 湯本南店
明るい社会づくり運動勿来地区協議会 内田 一久

13. いわき支部・賛助会員

木村 勝美 塩見 元彦 平中央自動車学校

14. 郡山支部・個人維持会員

青山 玲子	厚海 留美	穴澤 初美	阿部 寿美
網田 雄治	荒井 祐子	安斎 春江	安斎 洋子
安瀬ちえ子	安藤テル子	安藤富美子	飯島 直子
五十嵐芙美子	伊佐 香苗	井田川春子	伊藤 典子
井上貴代江	井上 好恵	猪俣 三保	岩崎 敦子
岩崎 恵子	岩瀬左代子	磐瀬 祐子	上野 和恵
藤沢 愛	薄井真理子	歌川 恵子	浦山 由理
遠藤 絵美	遠藤 君子	遠藤 祥子	遠藤美佐子
遠藤めぐみ	遠藤 洋子	大河原輝子	大田 吉子
大槻 裕子	大戸 康子	大橋 敏子	大原 栄子
大藤しのぶ	大桃たか子	大森みゆき	岡部 秀子
小山内恵合	押山 文子	小野 喜世	影山 浩美
景山かおり	影山美保子	加納 里美	鎌田 真理
菅家美和子	菅田伊津美	菅野多美子	菅野 美喜
菅野美由起	菊地かおり	菊地 聡恵	岸波 郁子
城戸 恵子	木本沙緒里	國定 俊彦	久保木優佳
桑名 静	小泉 智子	小柴 尚子	後藤英三子
近藤 チヨ	近内 利男	齋藤 篤子	齋藤 栄子
斎藤千代子	齋藤のぶ子	齋藤 マキ	斎藤 靖子
酒井美知子	坂本美佳子	相良 淳子	佐川 翔
佐久間きよ子	佐々木泰道	郷 智子	佐藤 香織
佐藤 恵子	佐藤 豊子	佐藤ヒロノ	佐藤 寛美
佐藤 正子	佐藤マチ子	佐藤 美枝	佐藤美恵子
佐藤 康子	佐藤 美幸	塩田 裕子	白石とも子
白戸亀代子	新林 康行	鈴木 利光	鈴木 待子
鈴木 幸恵	鈴木美賀子	鈴木由美子	関 由美子
添田 啓子	田井さやか	高橋 麻紀	高橋 幸子
高橋 絵美	滝田 恵	竹林 和子	田中 澄子
田邊 実	谷口 晶貴	玉井寿美子	田母神章子
千田香奈子	富永國比古	富永久美子	長尾トモ子
永峯 隆子	永山 義弘	名知 幸恵	七海 憲枝
生田目早苗	西牧 美恵	庭山 知子	布川 早苗
根本ヒロ子	根本由美子	芳賀 信子	芳賀 善正
橋本恵美子	橋本久美子	橋本 早美	橋本 由美

橋本 望	長谷川ゆみ子	長谷川美香	八賀 好美
馬場 智恵	浜津 明美	半沢 和	飛田 弘子
飛田 操	福本友紀子	冬室加代子	蛇石 郁子
星 美穂子	堀 祐子	増子 明香	増子 郁子
増子 松代	松崎佳小里	三澤可能子	水野 淳子
宮本 順子	宗形 明子	宗像智恵子	宗形 善貞
村上千津子	八重樫小代子	柳内 敏男	八代 育郎
八代嘉津子	箭内 喜訓	山口 信雄	湯田 真紀
横田亀久恵	横田 百合	横山ユキ子	吉田 朋子
吉成 妙子	吉成 夏子	吉野真知子	渡辺 佳子
渡邊 一美	渡邊サイ子	渡辺 順子	渡辺 真紀
渡部 裕子	渡邊 良子	渡邊 廣孝	渡邊 実
渡部恵美子			

15. 郡山支部・団体維持会員

浅木整形外科医院
 アムリタホールディングス株式会社
 株式会社エフコム 株式会社西部開発
 公益財団法人星総合病院病院長 渡辺 直彦
 国際ビジネス公務員大学校
 社会福祉法人共生福祉会
 日専連郡山女性部会

16. 郡山支部・賛助会員

飯島 直子	藤沢 愛	江間久美子	大橋 敏子
大桃たか子	小齋 恭子	斎藤千代子	佐藤 正子
佐藤 佳子	佐藤燃料株式会社		塩田 絵美
鈴木 恵子	高橋恵美子	根本ヒロ子	橋本 昌幸
半沢 和	飛田 操	株式会社富久山自動車学校	
三澤可能子	柳沼 純子	結いの里「竹柳庵」	

17. 歳末特別寄付

藍原 裕子	藍原 政信		
アイル薬局住吉店	赤津 雅美		赤城恵美子
明るい社会づくり運動郡山地区協議会	会長代行 佐藤 政喜		
内田 一久	秋元登志夫	朝倉美智子	浅野桂太郎
安達ライオンズクラブ会長	服部 富男	阿部 裕光	
安部 泰男	荒川 節子	有馬 博	安斎 征治

安斎 孝意 安斎 春江 安齋 睦男 飯島 直子
 飯塚 卓 石井 明子 石垣 清子 石下 恭子
 石澤 好雄 石田 宏寿
 石橋建設工業株式会社 代表取締役 石橋 英雄
 鎌田クリニック 理事長 板垣 茂 板垣 茂
 一般社団法人福島県医師会
 一般財団法人竹田健康財団
 一般財団法人福島県自動車会議所
 一般財団法人ふくしま市町村支援機構 理事長 遠藤 雄幸
 伊藤 典和 伊藤美知子
 医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
 医療法人社団石福会 四倉病院
 医療法人慈心会 村上病院
 医療法人落合会
 医療法人済精会 長橋病院 理事長 本多 幸作
 上杉 洋子 藤沢 愛 内山 清一 海野志ん子
 江尻 久子 江田 清 遠藤きく恵 遠藤 次男
 遠藤 敏子 遠藤 利子 遠藤 俊博 円谷 仁子
 大石 邦子 大木 厚 大田 吉子 大橋 敏子
 大桃たか子 大和田清司 緒方 慎一 岡部 秀子
 岡本 恒夫 小口 潔子 オリオン薬局 会田美智男
 オレンジ薬局 金澤 博信 金子勢津子
 株式会社西部開発
 株式会社環境分析研究所
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社ジー・アイ・ピー
 株式会社原町自動車教習所
 株式会社CIA
 株式会社原町中央自動車教習所
 株式会社総合コンサルタンツ 代表取締役 最上 諭
 株式会社大丸工務店
 株式会社同仁社
 株式会社トヨタレンタリース福島
 株式会社日新土建
 株式会社ハッピーケア
 株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀
 香山 雪彦 菅家八栄子 菅野 建二 菅野多美子
 菅野 藤江 菊地 節子 北関東空調工業株式会社

福島県立ふくしま医療センターこころの杜 院長 橘高 一
 木村 勝美 國定 俊彦 熊谷 泰人 車谷 栄子
 黒沢 秀子 桑名 俊光 健歩薬局 三好 正人
 小池アサ子 公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院
 康善寺 高蔵寺 神戸 信行
 郡山東ロータリークラブ 國分 紘一 小齋 恭子
 古関 君子 コパックス株式会社 小林 健夫
 古宮 功子 近藤 哲 近藤 チヨ 斎藤千代子
 齋藤のぶ子 阪上 通明 佐々木慶子 佐々木泰道
 笹原 和子 郷 智子 佐藤 一男 佐藤久美子
 佐藤 順子 佐藤 孝子 佐藤 正美 佐藤真智子
 佐藤ユキ子 佐藤 由美 佐藤工業株式会社
 佐野 勝俊 三瓶 弘次 塩見 元彦 志賀 里子
 穴戸 宏行 品川 萬里 渋谷 順子
 社会福祉法人育成会 理事長 高村トミ子
 社会福祉法人けやきの村 理事長 舟山 信悟
 社会福祉法人厚慈会 社会福祉法人共生福祉会
 社会福祉法人昌平賛 宗教法人安洞院
 白戸亀代子 菅野 和子 鈴木 恵子 鈴木修一郎
 鈴木 貴子 鈴木 美江 鈴木 芳喜 鈴木 利実
 関口 祐子
 関場建設株式会社 代表取締役社長 関場 啓
 添田 啓子 平中央自動車学校 高久 俊秋
 高根 富三 高橋恵美子 高橋 年光 竹川佳寿子
 竹林 和子 唯木トシ子 立花 スエ 田中 文博
 谷口 晶貴 谷口 孝一 田母神光男 玉木 仁彦
 丹治千代子 丹治 正男 丹野 一男 束原 康文
 寺島 長司 東北労働金庫福島県本部
 特定非営利活動法人 エルタ
 富永國比古・久美子 富山 雅子 永井 久雄
 中尾 誠利 長岡 利幸 中川 治男 中野 真理
 中村 基行 中村 礼子 生田目早苗
 日本基督教団郡山教会 日本基督教団福島伊達教会
 丹羽 真一 根本 克治 根本ヒロ子 根本由美子
 野口 尚一 野地 啓子 芳賀 信子 芳賀 裕
 芳賀 善正 萩原久美子 橋本 昌幸 八賀 好美
 馬場医院 小鹿山博之 早坂 薫 半澤 和
 飛田 操 平岩 幸一 平田祥一朗 平戸 隆子

広井トヨ子	廣川美智子		
ひろやまメンタルクリニック	廣山 祐治		
富久泉工業株式会社	福島民友新聞株式会社		
福島ヤクルト販売株式会社	福島ロータリークラブ		
福島YWCA	福地 正子	藤田 大	
株式会社北洋舎クリーニング		堀田 敬之	
保原自動車学校			
ほりメンタルクリニック	堀 有伸		
堀江工業株式会社	堀切 伸一		
まちの薬局扇町店	町野 紳		
松谷 彰夫	松本 純	馬目 重信	
丸三製紙株式会社		三澤可能子	水原美千枝
水戸 昇	湊 清一	南相馬中央医院	
南福島ひまわりクリニック	三橋 彦也	三宅 祐子	
村上 信子	村越 栄子	村田 純子	村田 秀人
望木 昌彦	物江 昌子	森 綾子	柳内 敏男
柳沼 純子	八代 育郎	八代嘉津子	梁川 優子
矢吹自動車教習所		矢部恵美子	矢部 薫
山口薬品株式会社		山崎三枝子	
結いの里「竹柳庵」		有限会社みどり薬局	
遊佐 久男	横田亀久恵	横山 憲一	吉澤萬里子
吉田 英策	吉田 和代	吉田 嘉子	
吉成内科	吉成 毅	鎌秀院 竹内	文崇
渡邊アサ子	渡邊 一美	渡辺 慶子	渡部 純夫
渡辺とくい	渡邊 文子	渡邊 又夫	渡邊 素子
渡邊 良子	渡部 喜照	渡邊 廣孝	藁谷 和子
匿名希望	2名		

18. 一般寄付者

NTT東日本福島支店長	亀山 綾子	菅野美恵子
菅野 光枝	仙台キリンビバレッジ株式会社	
今野 孝敏	佐藤賀津雄	三瓶 弘次
穴戸 悠子	穴戸 幸雄	高久 俊明
丹羽 真一	福島県民共済	横田多恵子
渡部信一郎	渡部美樹代	匿名1名

各種団体等からの補助金・助成金

福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金

福島県新型コロナウイルス自殺対策補助金

社会福祉法人福島県共同募金配分金

あなたもボランティアの仲間になりませんか

相談員になる

会員になる

講演会を聞く…などなど様々な参加方法があります。

福島いのちの電話にあなたの善意を…

いのちの電話の運営資金の多くは、民間の個人・団体（企業）の善意により支えられています。電話相談員の養成費・研修費・施設の賃料などの運営にも充てていますので、ぜひ、あなたも会員として福島いのちの電話を支えてください。

個人維持会員（年額一口）：1万円 5千円 3千円 2千円

団体維持会員（年額一口）：10万円 5万円 3万円 1万円

賛助会員（任意の金額を随時にお寄せください。）

お振込のご案内 名義は社会福祉法人福島いのちの電話です。

郵便振替：02140-7-16968

他の金融機関をご利用の方は、事務局までお問合せください。

「社会福祉法人福島いのちの電話」の会費及び寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。

匿名希望の方は、お申し出下さるようお願い致します。

※優遇措置を受けられる税金（所得税、個人県民税、一部の市町村は個人市町村民税も）

なお、支部の会員となって、支部の口座にお振込みいただくこともできます。（下表をご覧ください。）

喜多方支部	喜多方市上江3646番地1 （喜多方市社会福祉協議会） TEL 0241-23-3231	郵便振替 02210-1-96111 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 喜多方支部
南相馬支部	南相馬市原町区小川町322-1 （南相馬市社会福祉協議会） TEL 0244-24-3415	郵便振替 02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 南相馬支部
郡山支部	郡山市朝日1丁目29-9 （郡山市社会福祉協議会） TEL 080-2843-0268	郵便振替 02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 郡山支部



年中無休 午前10時～午後10時
(毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで)

ひとりぼっちで悩まずに

しみじみ
TEL **024-536-4343**

フリーダイヤル 毎月10日 午前8時～翌朝8時

自殺予防いのちの電話

なやみ ころ
TEL **0120-783-556**

〈相談時間〉午前10時～午後10時(3日前までに予約)

ふくしま寄り添い(予約制)フリーダイヤル

ころ いちばんやさしく
TEL **0120-556-189**

〈相談時間〉午前10時～午後10時

ナビダイヤル

なやみ ころ
TEL **0570-783-556**

メール相談 ホームページから「メール相談」を送信できます。

〈福島いのちの電話では、掛けてこられた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の研修目的に限り電話を録音しています。〉

メール相談



LINE相談



ホームページ

<https://www.fukushima-inochi.com/email-consultation.html>

社会福祉法人
福島いのちの電話

事務局／〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号
TEL.024-536-0032 FAX.024-536-2840
URL <http://www.fukushima-inochi.com/>

